

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について（速報）

綾瀬市教育委員会

1 令和8年度 全国学力・学習状況調査実施状況の概要

○小学校6年生と中学校3年生を対象に、令和8年4月23日（木）に実施*された全国学力・学習状況調査の結果について、その一部を公表いたします。

（*中学校英語及び児童・生徒質問調査は学校毎に指定された日に実施）

○調査内容は、教科に関する調査（国語、算数・数学、英語（中学校のみ））と児童・生徒質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査）、学校質問調査（学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査）です。

○教科に関する調査内容は、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等となっています。また、調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式（短答式を含む）の問題を一定割合で導入しています*。

（*中学校英語「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式となっています。）

2 結果の概要

○教科に関する調査の平均正答率（％）及び平均IRTスコア

綾瀬市	小学校		中学校		
調査教科	国語	算数	国語	数学	英語〔4技能〕
平均正答数	7.2／13問	7.9／16問	9.3／15問	8.7／16問	4.3／9問
平均正答率	55％	49％	62％	54％	平均IRTスコア：494

※中学校英語はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示しています。

・教科に関する調査では、小学校の国語、算数については、全国平均正答率と比べて下回りました。中学校の国語、数学については、平均正答率が全国平均正答率と比べてやや下回り、英語については、平均IRTスコアが全国平均IRTスコアと比べてやや下回りました。

○教科に関する調査について、本市の全国学力・学習状況調査から見られた「概ねできている（良好）」点については次のとおりです。

- ・国語において、小学校では、「話や文章の種類とその特徴について理解すること」などが概ねできていました。また、中学校では、「表現の効果を考えて描写すること」「単語の活用」「助動詞の働き」などが概ねできていました。
- ・算数・数学において、小学校では、「小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくること」「示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めること」などが概ねできていました。また、中学校では、「具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すこと」「箱ひげ図と四分位数の対応」について概ね理解していました。

- ・中学校英語において、「日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること」「日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ること」などが概ねできていました。
- ・中学校において、どの教科においても全体的に無解答率が全国平均より低くなっていました。

○教科に関する調査について、本市の全国学力・学習状況調査から見られた課題については次のとおりです。

- ・教科に関する調査の問題形式（選択式、短答式、記述式）からは、特に短答式、記述式が全国平均正答率を下回る傾向があることに課題がありました。
- ・小学校において、特に短答式、記述式の無解答率が全国平均より高くなっていることに課題がありました。
- ・国語において、小学校では、「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」などに課題がありました。また、中学校では、「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと」などに課題がありました。
- ・算数・数学において、小学校では、「二次元の表から、条件に合う数を読み取ること」などに課題がありました。また、中学校では、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明すること」などに課題がありました。
- ・中学校英語において、「社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと」「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すこと」などに課題がありました。

3 今後の対応

○今回の調査において、概ねできていると認められる成果については一層の充実を図り、課題については対策を示し改善に努めます。